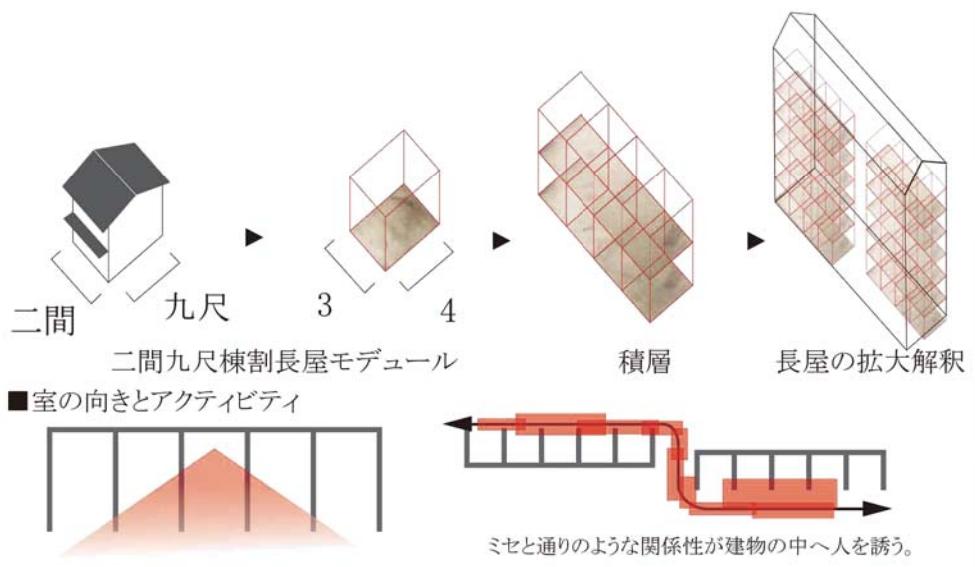
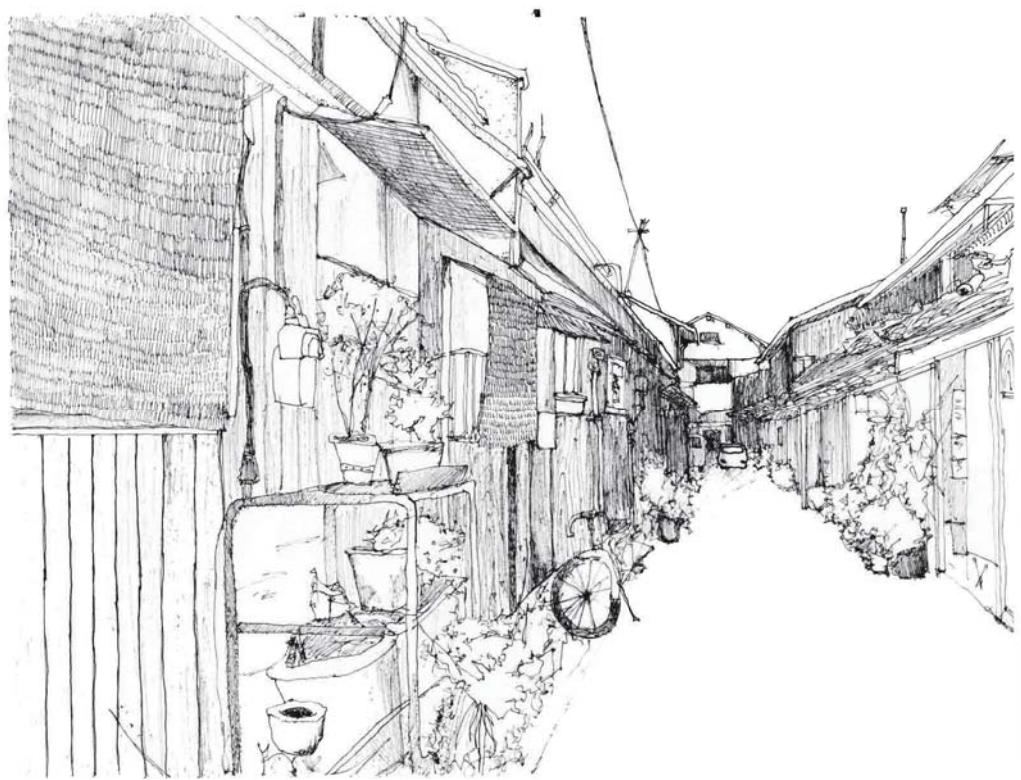


集積する長屋のコンプレックス



伝統的長屋配置を拡大したような敷地に容積を最大限に活用しつつ良好な住環境を目指す拠点として、典型的な関東間長屋のモジュールである二間九寸法比を採用し各機能を満たすよう積層する。リズミカルなプロポーションと土間、中庭といった空間構成は日本の価値を助長し国際化の波に飲まれない一體的な意匠を創造する。

01 敷地 丸の内 - 銀座間を繋ぐバス



9尺×2間の集積は建築内だけでなく、周辺に対してもアクティビティを生み出す。

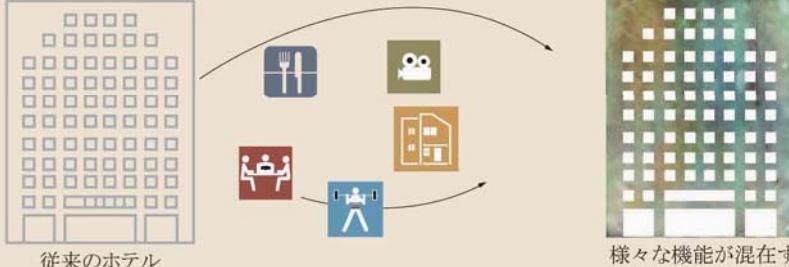
この三角地帯の開発の引き金となるこれは、人々を奥へと引き込み、ここに新たな遊戯性を誘発する。

02 24時間稼動するためには



銀行シャッター街と言わされた街が仲通りの再整備により、ワークタイム以外のアクティビティを手に入れた。大丸有エリアと銀座からの軸の交点にあるこの場所は都市に新たなボテンシャルを与える契機となる。グローバル化が進む時代に、都市も24時間可動することが求められる。常住人口の少ないこの街を可動し続けるにはなにが求められるのだろうか。

03 中長期滞在型ホテル複合コンプレックス



職住一体型の都市の需要、外国人労働者や中長期的滞在者参入に合わせ、居住機能を有した複合コンプレックスを整備する。コンソーシアム会員企業をはじめ、クリエイターや起業家が集いワークショップやセミナー、コワーキングの創発活動を中心としてオフィス、ホテル商業、シネマコンプレックススタジオ、フィットネス等を有する複合ビルを提案する。



04 木材利用の促進



木材輸入自由化に伴い、外國木材の輸入が増え、国内木材の利用量は激減。

05 構造

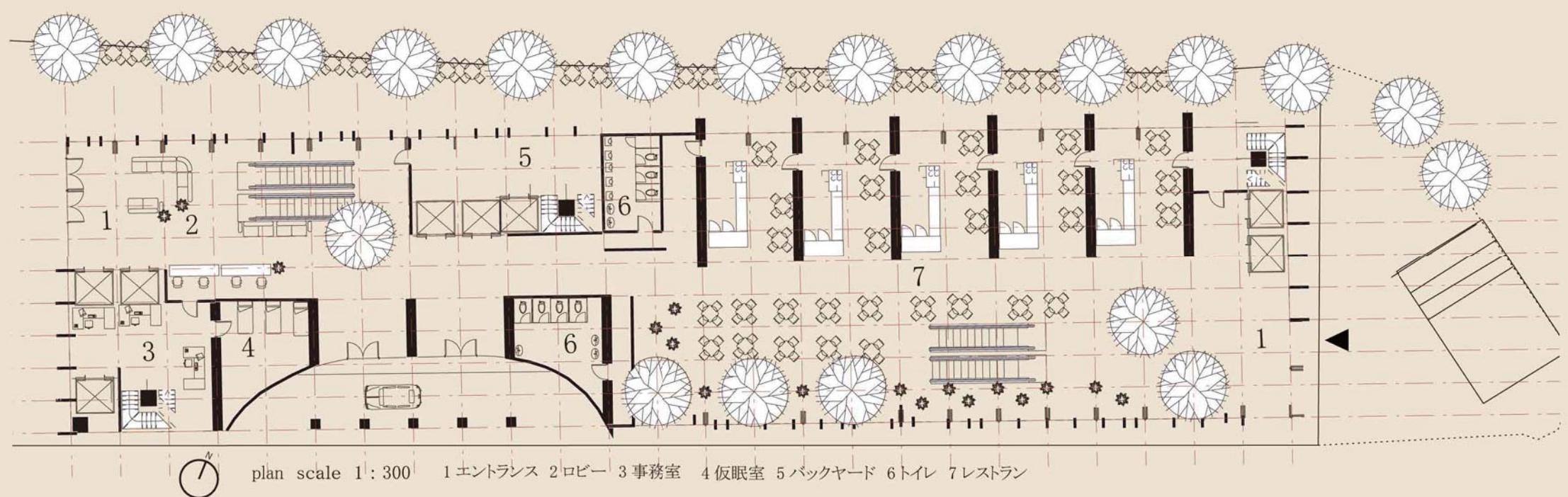


建物全体を剛強な鉄骨鉄筋コンクリート造耐震壁付きラーメン構造を探用し、大きな吹き抜け空間や緑化を同時に成立させる計画とした。また構造体であるとともにルーバーとパーティションの機能を同時に果たし空間のしきり、彩光、通風の変化をもたらす機能を合わせ持つ。

06 プログラム



長屋型のユニットに様々なプログラムが立体的に混ざり合う配置となっている。建物の雁行配置により客室とその他の用途をゆるやかにつないでいる。二つの棟を繋ぐアトリウムでは、時間や場所によりさまざまな使われかたをする。



07 環境

